米代川流域におけるスギ素材の流通動向について

森林技術センター　○高橋　謙二
高橋　　充

はじめに

住宅建築用としての，スギ素材の生産・流通及び消費の動向を探り，市場における需要者のニーズに的確に対応し得る，国有林材の造材仕様の在り方について検討し，有利販売につなげる方策が見い出せないか，①全国，秋田県及び米代川流域の住宅着工戸数に占める木造建築の割合，②同流域販売ブロックと民間市場における木材市況動向③同流域のスギ製材工場への聞き込み調査等を実施し，最近における需要の変化等を踏まえた国有林の採材の在り方等について，調査・分析を行ったので報告します。

1　調査実施内容と集約

（１）　住宅着工戸数調査（全国・秋田県及び米代川流域）

ア．全国の住宅着工戸数（図－１参照）

平成８年は，住宅金融公庫の貸出し金利が3.1％という追い風を受けたこと，消費税率アップ（3％から5％へ）を前にしての駆け込み需要が生じたことなどから164.3万戸となった，うち木造住宅は75.4万戸で，木造率４６％となっている。

平成９年は，駆け込み需要の反動に加え，先行きが見えない日本経済への不安等から138.7万戸となり，８年に比較し８４％と落ち込み，木造住宅も61.1万戸（８１％）と落ち込んで，木造率４４％となっている。

平成１０年は，企業業績悪化や大型倒産，雇用不安を背景に，生活防衛を強く意識した買い渋りが厳しいことなどから，119.8万戸止まりとなり，８年比７３％と更に落ち込み，木造住宅も54.5万戸（７２％）と落ち込んでいるが，木造率は４５％ と前年比では，若干回復している。

イ．秋田県の住宅着工戸数（図－２参照）

平成８年は，12.2千戸うち木造住宅は10.0千戸で木造率８２％となっている。

平成９年は，10.6千戸で８年対比８７％と落ち込み，木造住宅も8.7千戸(８７％）と落ち込んでいる。

平成１０年は，9.0千戸で８年対比７３％，木造住宅は7.4千戸（７４％）と更に落ち込んでいる，その木造率は８２％と３カ年同率となっている。

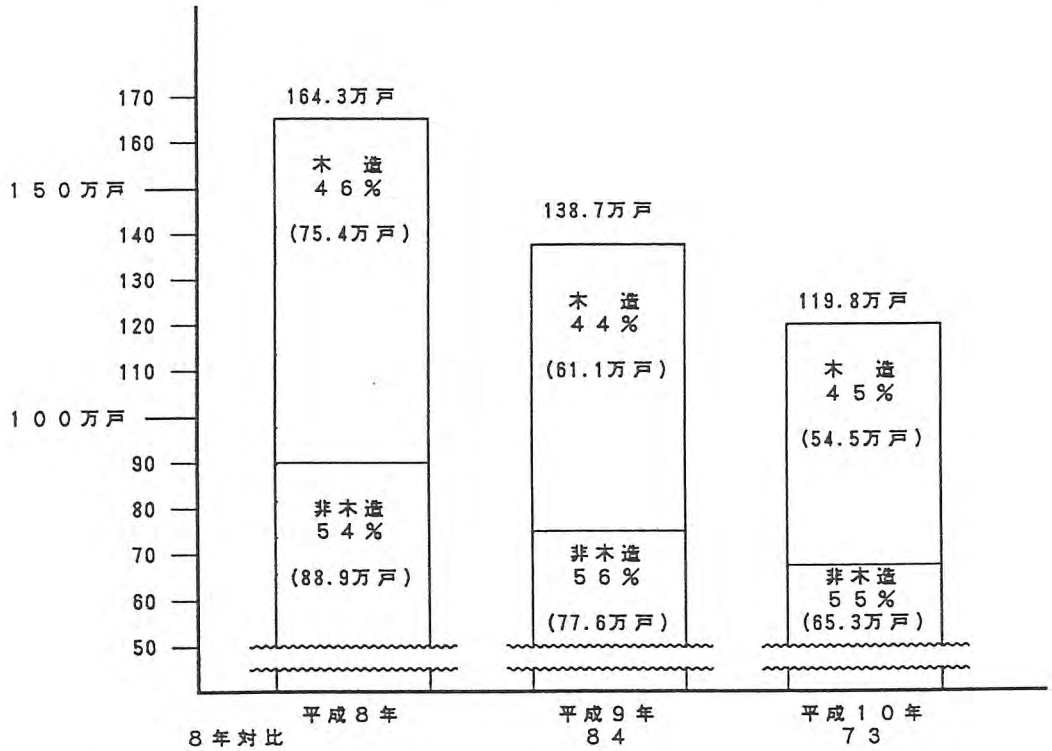
ウ．米代川流域住宅着工戸数（図－２参照）

平成８年は，3.3千戸うち木造住宅は3.0千戸で木造率９１％と高く，秋田県着工戸数の２７％を占めている。

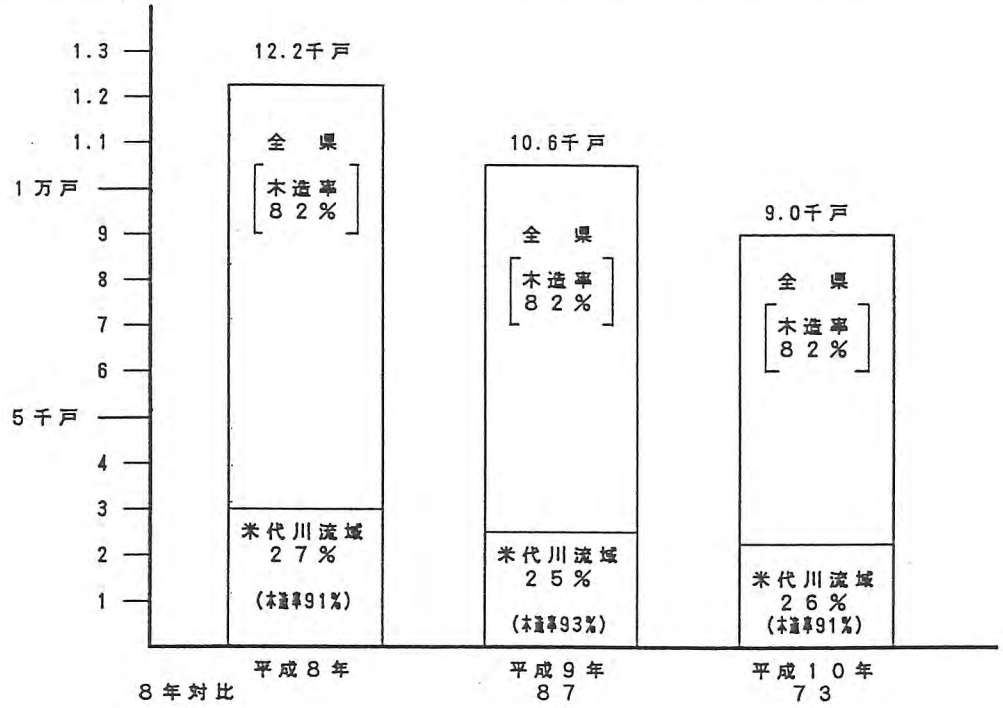
平成９年は，2.7千戸で木造住宅は2.5千戸，木造率９３％と極めて高い，秋田県の着工戸数の２５％を占めている。

平成１０年は，2.3千戸で木造住宅は2.1千戸，木造率９１％と若干落ち込みが見られ，秋田県の２６％を占めている。

図－1　住宅着工戸数（全国）　平成８年～平成１０年



図－2　住宅着工戸数（秋田県）　平成８年～平成１０年



【住宅着工戸数調査結果の集約】

全国・秋田県及び米代川流域とも，毎年１５％前後の単位で減少し，特に平成10年は，1,198,295戸と昭和５９年以来の１２０万戸割れの低水準となっている。

また，全国の住宅着工を構造別にみると，木造率は４５％前後で推移しているものの着工数の減少で木材需要も３カ年を通じて低迷している。

なお，昨年秋頃から住宅着工戸数は若干回復の傾向が見られる。

（２）　米代川流域販売ブロック・民間市場の木材市況動向等

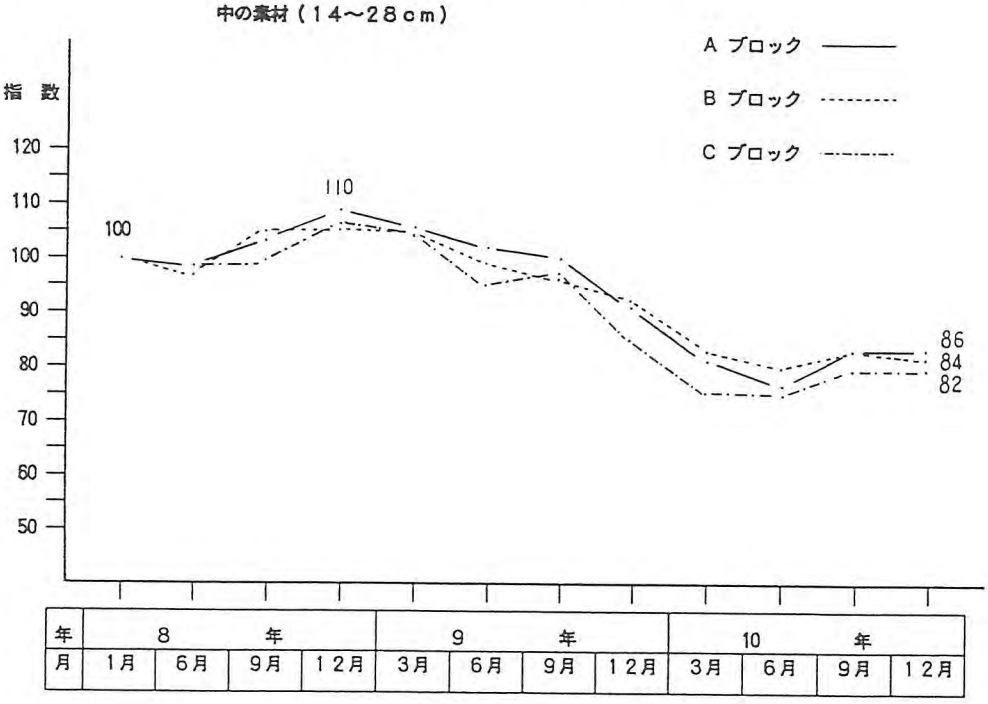
ア．販売ブロック別価格の推移（８年１月・指数１００）　（表－１参照）

販売ブロックの「中の素材」の市況動向をみると，平成８年は，年の暮れよりもいくらか高めとなって明け，３月まで軟調を続けていたが，５月からいくらか安くなり，８月はいくらか反発し，９月に入り一気に跳ね上がった。

平成９年は，年の暮れよりもいくらか安めとなって明けたが，２月から４月まで横ばいで推移し，５月は安くなり，１０月には更に安くなっている。

平成１０年は，この３年で最も安値で明け，月毎に安くなっていき５～６月頃最安値となっていたが，７・８月といくらか反発し，９月から１１月といくらか強含み，１２月は頭打ちの状態となっている。

表－1　販売ブロック価格の推移（平成8年～平成10年）



イ．民間市場別価格の推移（８年１月・指数１００）　（表－２参照）

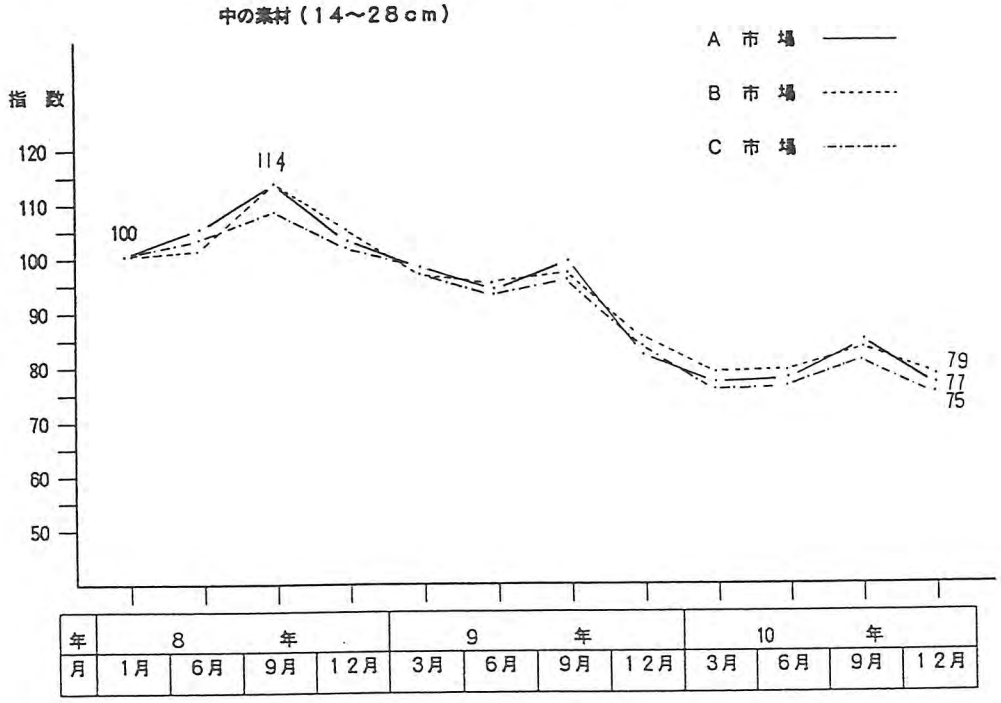
米代川流域における市場の「中の素材」の市況動向をみると，平成８年は，年末より若干高めで明け，３月までは軟調を続けていたが，５月はいくらか反発し６月には一気に跳ね上がり，９月は更に跳ね上がったが，１０月はいくらか安くなり１１月以降も落ち込んだ。

平成９年は，年の暮れよりもいくらか安めとなって明け，２・３月と安くなり４月～６月と安かったが，７月にいくらか反発したが，その後１０月に安値へと落ち込んだ。

平成１０年は，最安値で明け，２月から４月までは月毎に安くなっていたが，５月はいくらか反発し，６・７月といくらか強含みとなり，８月は大幅アップとなったが，９月は頭打ちの状態で，１０月～１２月と大幅に落ち込んでいる。

表－2　民間市場価格の推移（平成8年～平成10年）

中の素材（14～28cm）



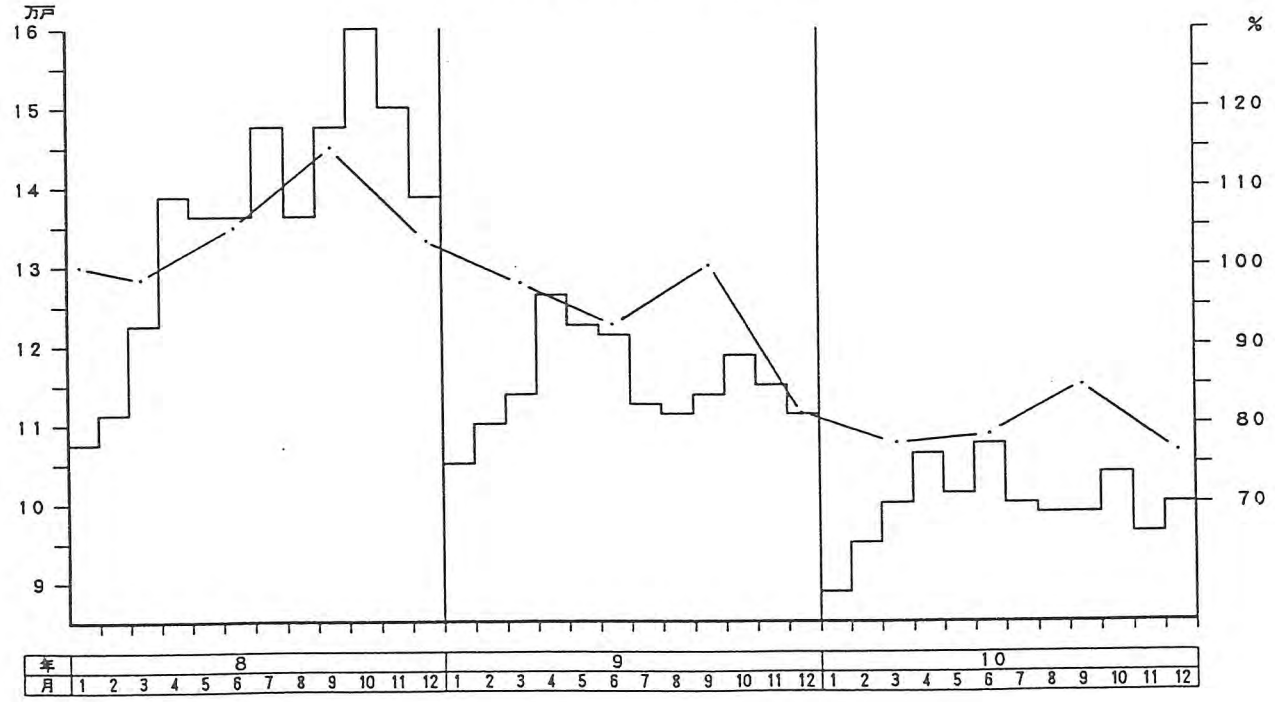
【米代川流域販売ブロック・民間市場の市況動向等の集約】

何れについても，8年の秋口が最高値を示し，その後下降を続け，10年4月～6月頃最安値となっている。

なお，図－3で見られるように住宅着工戸数と販売価格の推移を重ねて見ると，ほぼ2～3カ月遅れで数字が上下している。

このことから，木材価格の波は，住宅着工数，特に木造住宅の波と相関していることが考えられる。

図－3　住宅着工戸数と木材価格の推移



（３）　米代川流域スギ製材工場への聞き込み調査（販売ブロック別）

ア．原木消費量（工場当たり）（別添１参照）

年間消費量については，最大24,000m3，最小800m3，平均5,400m3となっている。

能代ブロックは平均6,100m3と事業規模が大きくなっている。

イ．原木の仕入先（別添１参照）

ブロック別に対比すると，国有林材は鷹巣ブロックが６１％と他のブロックに比較して高くなっているが，逆に民有林材は大館ブロックが７０％と高くなっている。

平均で国有林材は４６％となっている。

また，外材への依存度は，１％と極端に低くなっている。

ウ．原木の仕入先地域（別添１参照）

県外への依存度は，２１％となっているが，大館ブロックは３５％と他に比較して高くなっている。

主な仕入先は青森県であるが，大館ブロックは岩手県からも仕入れている。

エ．原木の仕入れ径級比率（別添１参照）

各ブロックとも，仕入れ径級は「中の素材」が主体であり平均５９％となっており高齢級林分が減少している中で，今後益々比率が高まると考えられることから，中目丸太からの製品販売先の確保が重要になると考えられる。

オ．製品別の割合（別添２参照）

在来工法における木材使用部材の内，柱角等の構造材は２４％であるのに対しヌキ・タルキ等の羽柄材の製品割合が６４％と非常に高くなっている。

カ．製品の販売先割合（別添２参照）

各ブロックとも県内向け製品は４割程度であるのに対し，東北・関東を主体に県外向け製品が６割程度を占めている。

キ．国有林材の採材の在り方（別添３・４参照）

現行の採材（主に３．６５ｍ）で良い工場が５２工場中，３２工場と６２％を占めている。

その理由として，県内及び羽柄材としての関東向けがその大宗を占めるなど，販路が確立されていることが考えられる。

しかし，その反面，現行の採材を変えてほしいとする工場が２０工場と４割近くに達している。

主な理由として，全国向けの製品サイズ生産のためが１６工場，メートルモジュールに対応するため３工場と，全国向けのための理由が９割強を占めている。

ク．４．００ｍ材等を多く販売すること（別添５参照）

現行の採材で良いとする３２工場の中にも，４．００ｍ材等を増やしてほしいと回答した工場があり，現行の採材を変えてほしい２０工場と合わせると，３３工場６４％に達する。

その内容は，３．００ｍ材２工場，４．００ｍ材３０工場等となっており，潜在的には希望があるものと考えられる。

ケ．４．００ｍ材はどの径級から採材すべきか（別添６参照）

希望している径級は中の素材（14～28cm）が３６％，大の素材（30cm以上）が６０％となっているが，中の素材と大の素材（中玉Ｂ）で６４％を占めているのは，メートルモジュール化への対応が主な理由であり，中の素材は主に柱角を，大の素材は平角を主体としており，安価であることも考えられる。

なお，大の素材（36cm上）は役物指向から林令を７５年生以上としてほしいとの意見もあった。

【スギ製材工場への聞き込み調査結果の集約】

平成７年度にも同様の趣旨で聞き込み調査を行っており，当時の調査結果と比較したところ，特徴として，現行の採材（３．６５ｍ）で良い工場が９０％であったものが，今回の調査結果では，６２％に止まっており，４．００ｍ等の採材を希望する工場が大幅に増加している。

2　本調査結果のまとめ

今回の調査は「住宅着工戸数」「米代川流域における販売ブロック別，民間市場別の木材市況動向」及び「米代川流域のスギ製材工場に対する聞き込み」等から判断したものであり，一概に言えないが，針葉樹材の殆どが建築用材を主体に製材されており，この建築用材には，材面の欠点が少なく，かつ，木目や材色の美しさが強調される構造材や下地材などがあり，これらは多種多様な品等と寸法のものが必要である。

現在，最大の問題点は，羽柄材の需要が従来に比べて大幅に減退しているという厳しい現実にあるが，一方，戦後拡大造林を実施してきた，スギ造林地（６齢級～１０齢級）の間伐材が大量に生産されることから，小丸太及び中丸太の販売対策が早急に必要となることも踏まえ，新しい需要を掘り起こし，全国規模でシェアを広げて行こうとするならば，3.65ｍオンリーから脱却してメートルモジュールとしての，２ｍ，３ｍ，４ｍという採材を国有林が率先して行って行く必要があるものと考えている。

別添 1

スギ製材工場への調査集約

（事業概要）

NO 1

販売ブロック名	一社当たり原木消費量（m3）		原木の仕入先(%)			原木(国有林・民有林材)の仕入先地域（%）			原木の仕入れ径級比率（%）					
	1日の平均消費量	年間消費量	国有林材	民有林材	外材	県内	県外	(主な県名)	小の素材（13cm以下）	主な製品名	中の素材（14～28cm）	主な製品名	大の素材（30cm以上）	主な製品名
大館 (鹿角~大館) 13社	20	5,134	28	70	2	65	35	青森 岩手	9	ヌキ タルキ 野地板	63	柱角 筋カイ ヌキ タルキ 間柱 鴨居 野地板	28	柱角 ヌキ タルキ 押胴ブチ 板割 割角
鷹巣 (鷹巣~阿仁) 16社	17	4,522	61	39	—	86	14	青森	8	母屋 筋カイ ヌキ タルキ 野地板	49	柱角 筋カイ ヌキ タルキ 間柱 野地板 板割	43	柱角 タルキ 鴨居 台輪 板割 割角
能代 (二ツ井~五城目) 23社	24	6,110	48	52	—	81	19	青森	5	ヌキ タルキ 野地板	63	柱角 筋カイ ヌキ タルキ 間柱 鴨居 野地板	32	柱角 タルキ 鴨居 板割 割角
ブロック平均 52社	21	5,377	46	53	1	79	21		7		59		34	

別添２

スギ製材工場への調査集約

（事業概要）

NO 2

販売ブロック名	製品別の割合（%）											製品の販売先割合（%）									
	梁桁母屋	柱角	筋カイヌキ	タルキ	押縁胴縁	間柱	鴨居台輪	板割	野地板	割角	その他	県内	主な製品名	東北	主な製品名	関東	主な製品名	関西	主な製品名	その他	主な製品名
大館（鹿角~大館）13社	—	17	44	9	6	1	2	12	3	4	2	36	柱角筋カイ 野地板 板割割角	5	柱角筋カイ ヌキ 板割	56	柱角筋カイ ヌキ板割 タルキ	—		3	板割 野地板 割角
鷹巣（鷹巣~桧山）16社	2	25	19	8	2	1	7	23	6	1	6	42	柱角筋カイ 野地板 板割割角	9	柱角鴨居 ヌキ タルキ	38	柱角鴨居 板割 ヌキ	1	柱角 板割	10	柱角 桁 板割ヌキ 野地板
能代（ニツ井~五城目）23社	3	20	16	6	6	2	7	28	6	2	4	35	柱角筋カイ 野地板 板割割角	11	柱角 筋カイ 鴨居	42	柱角母屋 板割 鴨居	4	柱角 板割	8	柱角 板割
ブロック平均 52社	2	20	24	7	5	2	6	23	5	2	4	38		9		44		2		7	

別添 3

（国有林の採材のあり方）

（1） 現行の採材でよい（主に3．65m）工場数と販売先について　　NO 3

販売ブロック名	N製材	聞込み工場数		該当工場数		現行の採材でよい工場（主に3．65m）							
						販売先（割合----該当工場に対し）							
	A	B	B／A %	C	C／B %	県内		関東		県内・関東		その他	
	地元工場数	工場数	割合	工場数	割合	工場数	割合%	工場数	割合%	工場数	割合%	工場数	割合%
大館（鹿角～大館）	35	13	37	10	77	3	30	1	10	3	30	3	30
鷹巣（鷹巣～小阿仁）	37	16	43	8	50	2	25	—	—	2	25	4	50
能代（二ツ井～五城目）	50	23	46	14	61	2	14	—	—	2	14	10	72
ブロック計	122	52	43	32	62	7	22	1	3	7	22	17	53

別添 4

（国有林の採材のあり方）

（２）　現行の採材を変えてほしい（主に３．６５ｍを）工場数とその理由　　ＮＯ　４

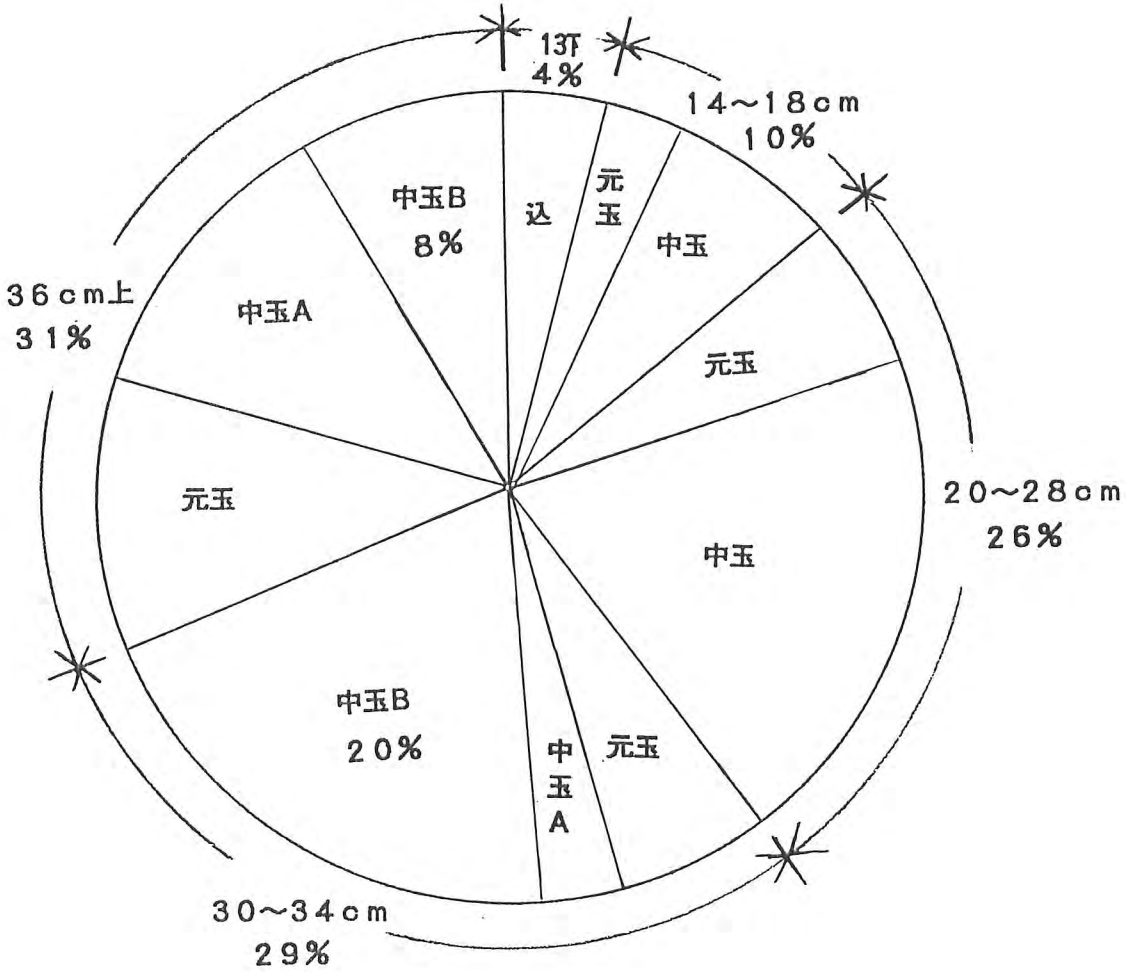
販売ブロック名	A 聞き込み 工場数	該当工場数		主な理由					
				全国向け製品サイズ		受注・需要に対応		モジュール化に対応	
		B 工場数	B／A % 割合	C 工場数	C／A % 割合	D 工場数	D／A % 割合	E % 工場数	E／A 割合
大館（鹿角～大館）	13	3	24	1	8	1	8	1	8
鷹巣（鷹巣～小阿仁）	16	8	50	8	50				
能代（二ツ井～五城目）	23	9	39	7	30			2	9
ブロック計	52	20	38	16	30	1	2	3	6

別添 5

（3） 4、00m材等を多く販売することについて（現行の採材で良い工場含む） NO 5

販売ブロック名	A 聞き込み 工場数	該当工場数		3．00m材を増やしてほしい		4．00m材を増やしてほしい		その他の採材を希望する	
		B 工場数	B／A % 割合	C 工場数	C／A % 割合	D 工場数	D／A % 割合	E 工場数	E／A % 割合
大 館（鹿角～大館）	13	(3) 8	62	(2) 1	8	(1) 6	46	1	8
鷹 巣（鷹巣～小阿仁）	16	(6) 11	69	(2) 1	6	(1) 10	63	(3) —	—
能 代（二ツ井～五城目）	23	(8) 14	61	(6) —	—	14	61	(2) —	—
ブロック計	52	(17) 33	64	(10) 2	4	(2) 30	58	(5) 1	2

※ 複数に亘っての採材を希望する工場は，主たる長級欄に記入した外，各欄に（ ）書で整理。

別添６

（４）　４．００ｍ材はどの径級から採材すべきと考えているか（現行の採材でよい工場含む）　　ＮＯ　６